記者発表

平成２５年７月９日
国土交通省東北地方整備局
最上川ダム統合管理事務所

梅雨前線に伴う降雨における
寒河江ダムの防災操作（洪水調節）効果について

～　ダムによる水位低減効果　約７０センチ　～

最上川ダム統合管理事務所管内では、梅雨前線に伴う降雨により平成２５年７月８日、寒河江ダムにおいて洪水調節を実施しました。
寒河江ダムへの最大流入量は約３９０㎥/sで、洪水調節でダムにため込んだ水の総量（以下、「調節総量」とよびます。）は、約３４０万m^3に達しました。（東京ドームを容器とすると約２．８杯分）
この洪水調節により、寒河江ダムの下流河川の水位を約７０㎝低減させる効果があったものと推測されます。

今後しばらくの間、ダムからの放流がつづきますので、河川やダムの情報に注意してください。

※防災操作（洪水調節）：川の増水を少なくするため、ダムに流れ込む水を貯めて川の水の量を減量している状態です。

【発表記者会：山形県政記者クラブ】

問い合わせ先

国土交通省　東北地方整備局　最上川ダム統合管理事務所
山形県西村山郡西川町大字砂子関１５８
副所長（技術）　高橋　長幸　（内線２０４）
調査課長　髙橋　正志　（内線２７１）
電話　０２３７－７５－２３１１（代表）

最上川水系　寒河江ダムの効果（平成２５年７月　梅雨前線に伴う降雨 ）

〇寒河江ダム上流域において、流域平均累加雨量は64.3mm、最大流入量は１秒間に約390立方メートルとなりました。
〇今回の洪水期間中において、最大約340万m3（東京ドームを容器とすると約２．８杯分）の水を貯留し、下流の洪水被害の軽減を図りました。※東京ドームの容量：約125万m3
〇ダム下流の西根地点（寒河江川下流基準地点）では、約70cmの水位を低減させる効果があったものと推測されます。









